

## 「ボールドー通信」

～持続可能な経済～  
ボールドー市の取り組みと企業

Colorado House International, LLC 代表

グッドマン 知子 (ボールドー在住)

今日は、LOHAS3つ目のカテゴリ「持続可能な経済」  
に因んで、ボールドー市の取り組みの一部とトリプルボ  
トムラインを大切にしている企業についてレポートします。

ボールドーの街はグリーンベルトと呼ばれる  
あらゆる建築物の建設を禁止した43・  
000エーカー(大抵市の面積の80%)に  
相当する広さ(以上)のオープンスペース  
と国立公園に守られて居つて居る。  
1967年、ボールドー市民は住民投票  
でこれらのオープンスペースを購入維持す  
るための税制度を自らに課した。人口9

万2千人に満たない市がこれだけの土地  
を購入維持してきたとはちょっとした驚  
きである。  
当時企業でも初めての試みであったが大  
きな成功を収め、現在では他地域のモデ  
ルケースとなっている。

この取り組みに付随して、オープンスペ  
ース内には208 kmにも及ぶトレイルが整  
備され、市民生活と健康に寄与している。  
市では他にも数えきれないくらいのエ  
コニック政策を行っており、ここではそ  
れらの政策を決める段階で採用されてい  
る「政策・トリプルボトムライン」とい  
う手法について触れたい。

ボールドー市では「地域社会の持続可能  
性」を実現するための政策をつの椅子  
としてイメージしている。その椅子には  
「健全な自然環境」「社会公平性」「経



※注: トリプルボトムラインとは、企業を財務  
パフォーマンスのみで評価するのではなく、  
持続的発展の観点から、「経済(財務)」に加  
え、「環境」「社会」といった3つの面からバ  
ランスよく評価し、それぞれの結果を統合的  
に高めていくという考え方。

「経済力」という3本の足がある。  
新たな政策を始める際、これら3本の足  
のそれぞれの観点から詳細に調査を行い、  
パスしたものが施行される仕組みに  
なっているのである。

3本足の中に「健全な自然環境」とい  
う項目があるが、この点を調査するに  
当たり、市では専門家や一般企業にも意  
見を聞かなければいけない。市民や地元  
企業の意見が反映しやすい仕組みである  
ことで、街のサステナビリティに貢献する  
事業を営むジヤコさんとさおりさん(夫  
婦)を紹介したい。

お二人はコロラド州アンバーとボールドー  
を中心に、CO State (www.co-state.edu)  
というオンラインパネルの設置やグリーンビ  
ルディング工事、そしてそれに付随する  
設備を販売する環境にやさしい会社を

経営している。  
お二人の運命の出合いの場所は若しくは  
大阪。ジヤコさんは大学卒業後、尊敬  
する部長「John W. Whitsett (1923-2003年  
に帝国ホテル・ライト館を建てた建築家  
の建築物と日本の伝統建築様式を学ぶ  
ため日本に渡った。しかし、時は1988  
0年代、日本の住宅シーンは欧米様式を  
好み、ジヤコさんが導く伝統様式を学ぶ  
機会はほとんどなかったそうだ。「日本  
の伝統的な建築物には、シンプルさと機  
能性、そして近年見直され始めたサステ  
ナビリティ」という要素がさりしり詰まっ  
て」とジヤコさんは情熱的に語ってく



た。さおりさん  
と出会ってから  
宮大工であるさ  
おりさんのお父  
様から日本建築  
の心と技を学ぶ  
ことができ、ア  
メリカでの起業の際にも大きな支えとな  
ったという。

CO State の経営理念は「楽しく、利益  
を上げながら、環境負荷を減らす」だ。  
こちらもボールドー市同様、まさにトリ  
プルボトムラインの考え方に沿った企業経  
営を実現していると言える。行政と多く  
の企業が同じ方向を見据え、未来に向  
かって努力しているということがボールドー  
市最大の強みなのかもしれない。



Tomoko Y Goodman  
グッドマン 知子

Colorado House International, LLC 代表。  
アメリカ合衆国コロラド州ボールドー市で、エ  
コデザインをテーマにしたデザイン・ビルド  
を運営している。NPO コーラスクラブ公  
認の LOHAS コンサルタント。  
お問い合わせは  
info@coho-online.com

<http://www.coho-online.com>